

極端な言い方だが、「暇な店」世の中の悪」だと思ふ。「忙しい店ほど工夫が生まれる。逆に言えば、工夫があるからこそにぎわって忙しくなる。暇な店は、お客、店員、会社のためにならない」。以前は「将来はウン百店展開」と「イケイケ」の姿勢を前面に出していた。でも今は、社員により良い安定した人生を歩んでもらうため、派手に展開するのではなく、一店一店の力を付けたい。必要なのは、各店を引っ張る店長のリーダーシップ。「上から押しさえつける人もいるけど、そんなタイプは大嫌い。部下の人生を背負っていることを忘れず、厳しくも温かく接してほしい」。

現状不満足主義

もちろん、攻めの気持ちには忘れてはいない。昨

「イケイケ」より一店一店



幅広い客層向けに、「和風しょうゆ」も投入した

いしの・やすひろ 富山市出身。大阪学院大商学部卒。大阪市内のラーメン店で修業後、1996年独立。翔志を設立し、社長。40歳。

◆翔志(白山市) 2001年設立。飲食店「らーめん世界」を北陸三県で13店展開。資本金1千万円。10年10月期売上高は10億円の見込み。

年11月には敦賀市に出店し、今夏にも滋賀県長浜市に進出する計画だ。「県外に進出する外食店は東京を目指すケースが多いけど、うちは関西。自分が修業した土地だから、うちの味で勝負できる自信がある。1店ずつ、地に足を付けて前進した

い」「らーめん世界」と言え、赤と黄色の店舗を思い浮かべる人も多い。ようやくイメージが定着してきた感もあるが、そこにあぐらをかくつもりはない。あっさりとそのイメージを捨て、最近茶色を基調とした落ち着いた

いた内装の店も出している。「年配の方でも居やすい店じゃないと、今後は生き残りが難しい」。客は気付かないかもしれないが、スープも年間数十回は変えている。「成功した人は過去の栄光にとらわれがち。『現状不満足主義』で常に改善点を探したい」。

単細胞集団

休日ほとんどなく、頭の中は仕事のことばかり。夢の中で悩み事の解決策が浮かんだこともある。でも、そんな自分以上に「アツい」社員も育てている。「自分をはじめ、単細胞集団ですから。物事を突き詰める時は、まっすぐに考える。いい社員と出会えたと思います」。自社で修業し、独立していった元社員も増えてきた。「らーめん世界で働けて良かった。そう思ってもらえれば、こんなにうれしいことはない」。